

## 49 こうもり博物館 —意外にかわいい動物なのです—

「間もなく運動会、みんな一生懸命です。入園して半年の年少さんもがんばっています」というお手紙ありがとうございました。

さて、お手紙にあった「捕まえたコウモリを幼稚園で飼いたい」ですが、捕獲自体が禁止され飼うには許可がいます。私も、「校長先生、コウモリはどうして飼えばいいですか」と尋ねられ、奈良教育大学理科教育研究会でお聞きした前田喜四雄先生のお話を元に答えました。このことは、当時の校長室だより「すくすく」に次のように書いていますので参考にしてください。

前田先生のお話によると、コウモリはずいぶん種類が多く、地球上に住んでいる約 4300 種類のホニュウ類のうち、なんと 1000 種がコウモリだということでした。私たち人間をはじめとして、イヌやネコなどの私たちと共に暮らしている生き物、ウシやブタなどの私たちの生活を支えてくれている生き物、動物園でおなじみのゾウやライオンにトラやキリンなど、たくさんのホニュウ類のうちの 23%がコウモリだという話にはびっくりしました。



多くのコウモリは虫を食べます。その量はずいぶん多く、蚊のような小さな虫だと 1 日に 400～500 匹は必要です。これだけの生きた虫を毎日準備するということは、とてもできません。

この話で、子どもたちはコウモリを飼うことをあきらめてくれまし

たが、ほんとうに生き物を飼うということは大変なことなのです。ちょっとした思いつきでできることではありません。命を大切にするためには、こうしたことをしっかり考えてから始めなければならないと思います。

ところで、コウモリは害虫を食べてくれる大切な動物ですから、森に巣箱を置いてコウモリを増やしている国もあるそうです。また、コウモリの体の仕組みや特性を研究すれば面白い発見があるだろうし、有用な発明につながるかもしれないということでした。それぞれが精いっぱいに生きている、そんな地球上のたくさんの生物と仲良く暮らしたいものだと思います。

さて、あなたからのお手紙で久しぶりに思い出したコウモリ、もう少し詳しく勉強したいとコウモリ博物館を訪ねてきました。ここには、たくさんのコウモリの標本や生態写真をはじめ、コウモリに関する文化的な資料まで展示されており、コウモリについての興味深いお話を聞かせていただくことができました。そして、許可を得て飼育しているという3匹のイエコウモリの鳴き声をバッドディテクター(コウモリの出す超音波を人の耳で聞こえる音に変換します)で聞かせてもらいました。

「暗い洞窟に住んでいて気持ちが悪い」、「血を吸うと聞いたことがある」などとあまりいいイメージを持たれていないコウモリですが、ここを見学すると、友達になれる、あるいは大好きになれるかも知れません。

正彦君や由佳ちゃんを連れて、お訪ねになってはいかがでしょうか。

(平成22年10月・幼稚園長を務める敦子さん宛て)

## スポットの案内

奈良市広岡町 213-3 にあるこうもり博物館は、NPO 法人・東洋蝙蝠研究所が運営している施設です。

開館時間は月、火、木、金の 10:00～16:00 です。夜間や休日に開館される場合もあるようですから、電話 0742-95-0023 にお尋ねするといいでしょう。入館料は大人も子どもも 200 円です。

## 理科のワンポイント「コウモリの翼(つばさ)」

コウモリの翼はヒトの腕にあたります。コウモリの翼の骨とヒトの手の骨を比べてみましょう。ヒトの骨の A は上腕骨、B は尺骨ととう骨、C は手根骨、D は中手骨、E は指骨です。指骨はそれぞれ 3 つの骨に分かれています。

ヒトの腕とコウモリの翼の骨を比べてください。コウモリでは中手骨 D や指骨 E がずいぶん長くなっています。

そして、これらの骨の間に飛膜と呼ばれる膜が張っています。この膜は小指から足の骨にもつながり、小型のコウモリでは、さらに尾との間にも膜が張っています。これらの膜で風を受けることによって、コウモリは飛ぶことができるのです。

